

帰り花まだ取り返しにつく余生

田中 たづこ

断捨離と気負ってみたが元のまま

今川 昇

島訛り飛び交い和むクラス会

竹本 タエ子

我が身には携帯よりも備忘録

磯部 佳子

野良猫が時間通りに待っている

重宗 隆治

かえりばなまだとりかえしにつくよせい

たなか たづこ

だんしゃりときおってみたがもとのまま

いまがわ のぼる

しまなまりとびかいなごむくらすかい

たけもと たえこ

わがみにはけいたいよりもびぼうろく

いそべ よしこ

のらねこがじかんどおりにまっている

しげむね たかじ

天高し声援響くサッカー場

三戸 志津江

銀杏散る公園隅のけんけんば

林 保江

小鳥来る無人の駅の丸ポスト

藤岡 久美子

三食に唱へる言葉文化の日

春吉 智子

紅葉狩たびたび覗く万歩計

金内 憲一

てんたかしせいえんひびくさっかーじよう

みと しづえ

いちようちるこうえんすみのけんけんば

はやし やすえ

ことりくるむじんのえきのまるぽすと

ふじおか くみこ

さんしよくにとなへることばぶんかのひ

はるよし ともこ

もみじがりたびたびのぞくまんぽけい

かねうち けんいち

かの辺り鉄塔近くの我家なり
思い巡らす病室の窓

原田 ヤスエ

新しい手帳求め来る年も
書込みなるや深まりゆく秋

江川 詳子

寝ころんで犬の背中を撫でながら
なでられている私のところ

弘重 和恵

廃屋に金木犀の香りして
忘れないでと生抜いている

山口 正子

あどけなき娘の寝顔に癒されて
今日も私の一日が終わる

財間 星

かのあたりてつとうちかくのわがやなり
おもいめぐらすびょうしつのまど

はらだ やすゑ

あたらしいてちようもとめくるとしも
かきこみなるやふかまりゆくあき

えがわ しょうこ

ねころんでいぬのせなかをなでながら
なでられているわたしのところ

ひろしげ かずえ

はいおくにきんもくせいのかおりして
わすれないでといきぬいている

やまぐち まさこ

あどけなきむすめのねがおにいやされて
きょうもわたしのひとひがおわる

ざいま ほし

待ち続けて銅像になった犬で皆が待つ

権代 祥一

忘れものをしたような気がして振り返る

田中 里美

診察室の笑う声ほっこりとする

田中 律子

ニツクネームとびかう喜寿同窓会

岡部 雅江

星たちの孤独あのベンチは知っている

佐川 智英実

まちつづけてどうぞうになったいぬでみんながまつ

ごんだい しょういち

わすれものをしたようなきがしてふりかえる

たなか さとみ

しんさつしつのわらうこえほっこりとする

たなか りつこ

につくねーむとびかうきじゅどうそうかい

おかべ まさえ

ほしたちのこどくあのべんちは知っている

さがわ ちえみ